平成 23 年度　事務事業評価シート(平成 22 年度実施事業)

整理番号	教生社02

事務事業名	成人式開催事業		
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	3	次代を担う子どもを育むまち
	施策(節)	3	青少年の健全育成
	施策の方向	(3)	社会参加・交流機会の充実
関連する計画等			

予算科目		
会計	1	一　般　会　計
款	10	教育費
項	5	社会教育費
目	2	青少年育成費
事業	3	成人式

作成部署	教育委員会事務局生涯学習室社会教育課
連絡先	072 - 958 - 1111　　内線　4450

事業の目的

対象（誰を・何を）
新成人

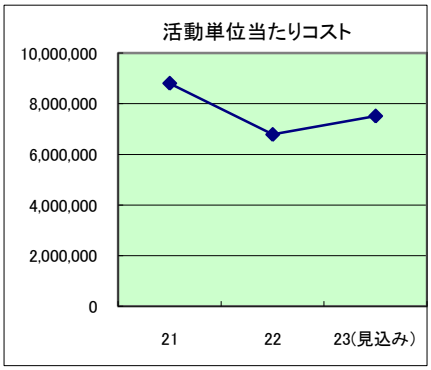
意図（どういう状態にしたいのか）
新成人を祝福するとともに、成人としての義務を自覚してもらう。

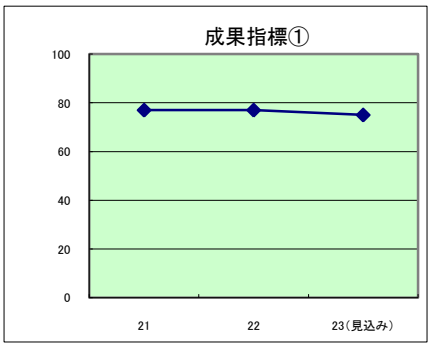
事業の内容
毎年、1月の第２月曜日（成人の日）に、総合スポーツセンター（はびきのコロセアム）にて開催
第１部は、新成人を対象とした記念式典
第２部は、「はたちのつどい」と題して、新成人を含む青少年により構成される実行委員会により、恩師からのビデオレター、抽選会等のイベントを企画・運営する。

根拠法令等	
事業開始時期	☑ 昭和　32 年開始　☐ 明確にはわからない　☐ 平成　☐ 市制施行（昭和34年）以前より行っている
終了年度	平成　　年度
事業開始時からの状況変化	第２部に、実行委員会方式を取り入れた
市民や議会の要望	
実施手法	☐ 直営　☑ 一部委託　☐ 全部委託　☐ 補助金・助成金　☐ その他（　　）
委託先	☐ 市外郭団体委託　名称（　　）　☑ 民間委託　☐ その他
委託内容	「はたちのつどい」食事供応業務、警備業務

区分		21年度（実績）	22年度（実績）	23年度（見込み）
事業費【1】	(千円)	3,629	2,828	3,555
人件費【2】	(千円)	5,175	3,960	3,960
職員数	正規職員	0.69 人	0.55 人	0.55 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	300.00 時間	300.00 時間	150.00 時間
総事業費（【1】＋【2】）【A】	(千円)	8,804	6,788	7,515
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	8,804	6,788	7,515

活動指標(事業の活動実績)【B】	単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① 開催日数	日	1	1	1
② 参加者数	人	937	920	930
③ 対象者数	人	1,212	1,198	1,200
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)		8,804,000 円	6,788,000 円	7,515,000 円
市民１人当たりコスト(【A】／人口)		74 円	57 円	64 円





成果指標（事業目的の達成度を測る指標）

	指標名	単位	指標設定の考え方		平成21年度	平成22年度		平成23年度
①	成人式参加率	%	成人式への参加状況	目標	75	75	達成率(%)	75
	(式) 参加者数÷対象者数×100			実績	77	77	102.7%	
②				目標			達成率(%)	
	(式)			実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	全国的に統一した記念式典事業である。
							○				

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☑	☐	☐	全国的に統一した記念式典であり、新成人にとっても、一年前から問い合わせがあるほど、関心の高いイベントである。 地域で新成人を祝い、成人としての義務と責任を自覚してもらう機会として、有意義である。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☑	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☑	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☑	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☑	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☑	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☐	☑	
	効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）	☑	☐	☐	第１部の式典については、必要最小限のコストである。 第２部の「はたちのつどい」に関しては、華美になり過ぎないように、実行委員会と調整しながら、簡素化を図った。 また、会場の設営に、前日の準備段階から、担当課以外からの応援の人員を多く必要とするため、その点での検討が、今後必要かと思われれる。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☑	
		人員を削減する余地がない	☐	☑	☐	
		事業費を削減する余地がない	☐	☑	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☐	☑	☐	
		市の他事業と重複していない	☑	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない	☐	☑	☐	
	有効性	上位の施策（目的）が明確である	☑	☐	☐	新成人としての自覚を持ってもらうためにも、有効性の高い事業である。
		上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である	☑	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☑	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☑	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☑	☐	☐	「はたちのつどい」イベントを、１８歳から２５歳までの市内在住者を対象に、実行委員を公募し、運営している。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☑	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☑	☐	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☑	☐	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☑	☐	☐	成人式参加率は目標を達成している。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☑	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☑	☐	☐	

担当部局評価

総合評価

☐ 拡大・充実　☐ 現状維持　☑ 方法改善　☐ 民営化・民間委託　☐ 縮小　☐ 廃止・休止　☐ 完了

評価の理由

全国的統一した記念式典であり、地域で新成人を祝い、成人としての義務をあらためて自覚してもらうためにも、必要な事業である。会場設営に多数の応援人員を必要としており、改善の余地がある。

今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）

コロセアムのアリーナを利用するため、床の養生等の準備や片づけに多くの応援人員を必要とするため、もう少し作業を簡略化できる方法を検討していく。

行革本部評価	総合評価	評価理由・意見
	☐ 拡大・充実　☐ 現状維持　☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託　☐ 縮小　☐ 廃止・休止　☐ 完了	